

完全オンラインだから実現する、学びのDX

オンラインでインプットとアウトプットを繰り返す、「元の状態に戻らない」新しいサイクル・メソッド。

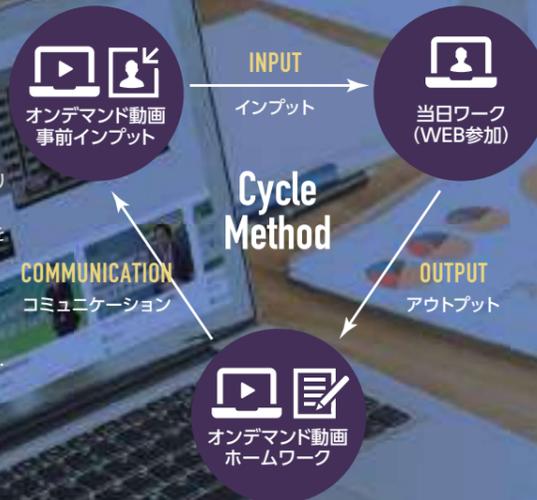
スクール当日だけでなく、オンラインでの事前・事後学習・他受講生とのコミュニケーションを通じて、より良い教育効果を実現します。スキルアップを前提としたスクールだからこそ、インプットとアウトプットによる「学びを止めない」仕組みをつくることで、より実践に即した成果を生み出します。

貴社の育成担当者と連携し、受講生の成長をサポート

弊社オリジナルの「ワークシート」を活用して、貴社の育成担当者と連携し、受講生の成長をサポート。貴社・受講生・コンサルタントの三位一体で「サイクル・メソッド」の定着を促し、より密度の高い学習を実現します。

コンサルタントが直接ご報告

コンサルタントが、受講生の研修内容や受講状況をご報告いたします。本人の特徴（良い点と課題）に加え、成果物と今後の指導ポイントをあわせて、人材成長と会社貢献の視点から、育成アドバイスをいたします。



デジタルツールを活用した効果的な育成

- 資料ダウンロード
- コミュニケーション
- アンケート
- カリキュラムに合わせた予習
- 復習用動画コンテンツ

スクール中はオンライン学習プラットフォームを活用。予習・復習・自己啓発だけでなく、ツールを使って受講生同士や弊社講師とコミュニケーションを行うことで、より自発的で効果的な学習が可能となります。セミナー修了後も学びの定着につながる動画コンテンツが1年間視聴できます。

SCHEDULE

10:00～17:00

オリエンテーション

基本講義

グループワーク①

昼食休憩(各自)

グループワーク①つづき

アプリ説明・開発体験

次回のご案内

開催概要

開催日程 1日間×5カ月

開催月 2025年10月～2026年2月

開催地 オンライン開催

日程の詳細はホームページよりご覧いただけます。

※開催日につきましては変更になる場合がございます。予めご了承ください。

参加概要

受講対象 業種・職種問わずDXの推進に関わる責任者・リーダー及び候補

早期割引 2025年7月31日までに申し込みで10%割引

申込期限 開催日の1週間前までにお申込みください。

※事情により、お申込みをお受けできない場合がございます。予めご了承ください。

受講料 お一人様/231,000円(税込)

※セミナー期間中の教材費を含みます。

申込方法

ホームページからお申込みください。詳細もこちらからご覧いただけます。

タナベ DXリーダーズスクール 検索

携帯電話、スマートフォンからもお申込みできます。▶▶▶



※カリキュラム・スケジュールは変更となる場合がございます。予めご了承ください。

お問合せ

株式会社タナベコンサルティング E-mail seminar@tanabeconsulting.co.jp

東京 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-2 鉄鋼ビルディング9F
TEL 03-6758-0083

大阪 〒532-0003 大阪市淀川区宮原3-3-41
TEL 06-7177-4008

TCG TANABE CONSULTING

DX認定



2025

DXリーダーズスクール マネジメントDXコース

DX Leader School / Management DX

デジタル×情報を用いてマネジメントを改革し、
業務効率化・付加価値の創出ができるリーダーを育成する

Point

1

自社の業務を
効率化するための
スキルを身に付ける

Point

2

自社の情報を戦略的に
活用するための
着眼点を身に付ける

Point

3

自社に必要なマネジメントDXの
戦略・アクションプランを
明確にする

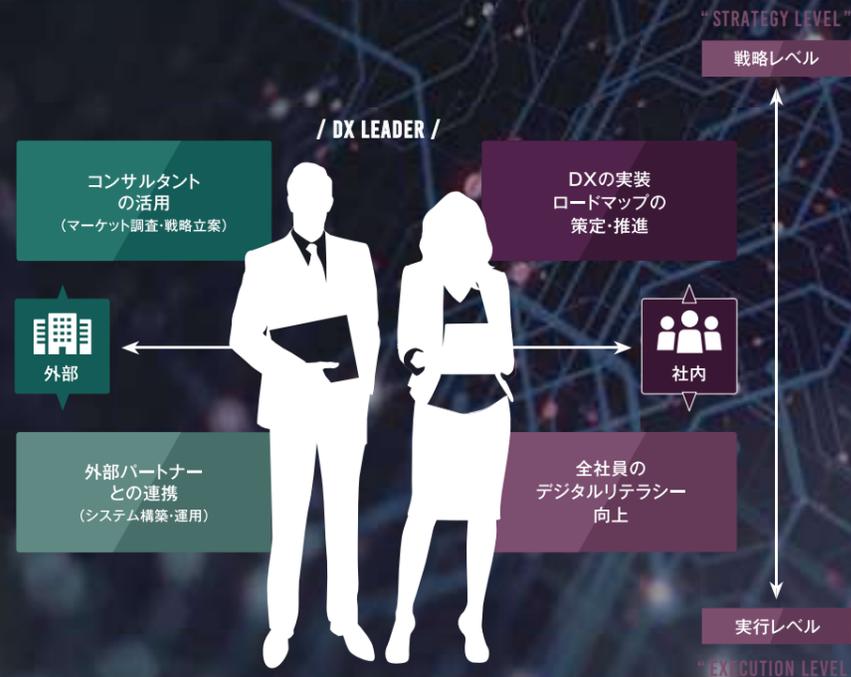
情報を戦略的に活用し、 付加価値創出に向けたDX実装までの ロードマップを策定

DXを推進するうえで、最初の壁となるのは「人材」です。

多くの企業で、DX人材の不足からリスクリングの必要性が叫ばれています。ただし、リスクリングはあくまで手段であり、例えば流行りだからといった目的のない学びではなく、企業の戦略から逆算したDX人材の育成が重要になります。タナベコンサルティングでは、戦略を理解してデジタルに精通しているだけでなく、「自社の戦略を理解し、デジタルを用いて競争力を高めることができる人材」をDXリーダーと定義しています。当スクールでは、デジタルを活用した業務効率化や情報の管理・活用などのマネジメントDX領域において、右図のような戦略とデジタル施策を両軸で推進できるDXリーダーを育成し、自社の現状と課題に即して、「戦略」と「マネジメント」と「DX」を総合的に考える力を養います。

こんな課題はありませんか？

- 業務やシステムがうまく連動せず、業務に時間がかかっている
- 社内の情報を戦略的に活用していきたいが、どのように進めるべきかわからない
- 自社内でDX人材を育成していきたいが、どのように学ばせるべきかわからない



Contents スクール内容

グループワーク

コンサルティング事例のケーススタディをもとに、チームに分かれてディスカッションを行います。問題の本質を把握し、的確に判断できる能力を習得。さらにグループワークを通じて自社の戦略に落とし込むことで、より実践的な学びへと繋がります。

基本講義

基本知識だけでなく、コンサルティング事例を交えた実践に結びつく講義を、各回のテーマに応じて行います。DXビジョンを実現できるDXリーダーになるための理解を深めます。

アプリ開発

情報をいかに蓄積し、活用するかがDXにおいて重要になります。重要性の理解のため、簡単なアプリ開発を体験します。

DX実装に向けたビジョンロードマップ

5ヵ月間のスクールを実施することで最終的にDXビジョン実現のロードマップが完成します。最終回では「DX実装コミットメント」として発表し、DXリーダーとして今後どのように自社を変革していくのかを明確にします。



性格診断で自己分析

性格診断では、個人の考え方・価値観を定量的に分析し「強み」や「注意点」を把握します。事前に自身の特性を理解することで、テーマ感を持って、より有意義にセミナーにお取り組みいただけます。



5 Curriculum / 全5回カリキュラム / ※変更になる場合がございます。

MANAGEMENT DX LEADER SCHOOL

第1回 DXビジョンの明確化

DXを実装するうえで、最初にすべきことは「ゴール」を定めることです。DXの全体像や潮流を踏まえ、自社がマネジメントDXを推進する目的やミッションを明確にします。

- INPUT**
- ▶ 事前動画
 - ・DXは手段から前提へ
 - ・DXビジョンとは～経営戦略・事業戦略の実現～
 - ・DXを通じたビジネスモデルの変革
 - ・マネジメントDXの全体像
 - ▶ 講義
 - ・DXビジョンの明確化
 - ・kintoneの操作方法①

- OUTPUT**
- ▶ グループワーク
 - ・A社のDXビジョンの明確化
 - ▶ ホームワーク
 - ・自社のDXビジョンの明確化

第2回 自社の現状を把握する

ゴールに向かい推進するためには、現状を把握することが重要です。現状のシステム鳥観図の作成を通じて、現状のネックとなっている工程を洗い出します。

- INPUT**
- ▶ 事前動画
 - ・ITの潮流
 - ・業務分析と自動化
 - ・システム鳥観図の作り方
 - ▶ 講義
 - ・自社の現状を把握する
 - ・kintoneの操作方法②

- OUTPUT**
- ▶ グループワーク
 - ・A社のシステム構造を把握する
 - ▶ ホームワーク
 - ・As-Is システム鳥観図・課題一覧表

第3回 IT化に向けた業務変革

業務変革をするためには、どのような姿になるべきか要件定義が必要です。第2回で作成したシステム鳥観図を用いてあるべきシステム鳥観図を作成します。

- INPUT**
- ▶ 事前動画
 - ・オペレーションDXの全体像
 - ・現状認識の進め方
 - ・戦略推進のポイント
 - ・RPAによる定形業務の自動化
 - ▶ 講義
 - ・IT化に向けた業務変革
 - ・kintoneの操作方法③

- OUTPUT**
- ▶ グループワーク
 - ・A社のIT化に向けたシステム鳥観図
 - ▶ ホームワーク
 - ・To-Be システム鳥観図

第4回 情報の一元管理

マネジメントDXにおいて、情報をどのように管理するかが成功のカギになります。アプリ開発を体験することによって、情報管理の重要性を体験します。

- INPUT**
- ▶ 事前動画
 - ・ERP導入によるリアルタイム経営の実現
 - ・マーケティングDX推進体制
 - ▶ 講義
 - ・情報の一元管理
 - ・kintoneを活用したアプリの開発方法

- OUTPUT**
- ▶ グループワーク
 - ・A社の情報を一元化するアプリ開発
 - ▶ ホームワーク
 - ・マネジメントDX体系図

第5回 ロードマップ実現に向けて

戦略設計とデジタルマインドを両立した人材こそが「DXリーダー」です。スクールでの集大成をメンバーに共有することで、DXに向き合い、社内に変革をもたらすコミットメントをします。

- INPUT**
- ▶ 事前動画
 - ・ビッグデータの活用
 - ・データの利活用
 - ▶ 講義
 - ・ロードマップ実現に向けて

- OUTPUT**
- ▶ グループワーク
 - ・A社のデータ分析
 - ・ロードマップの発表